

時代は、国際文化交流の重要性に期待の声を寄せています。
ジャパンファウンデーションは大改革の一年を経て、
時代の要請に応えることができる組織となりました。

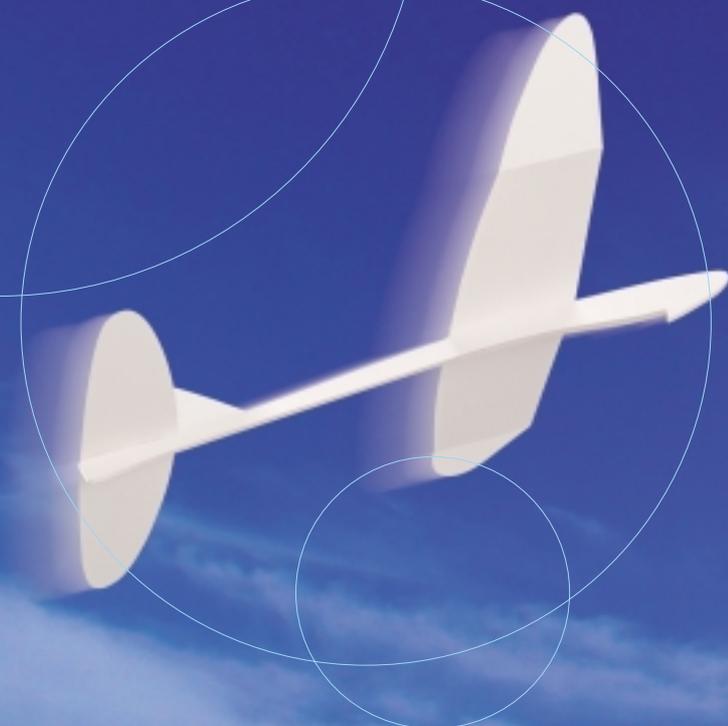
グローバル化が進む現代、国際社会のさまざまな垣根が低くなり、市民にとって文化交流はますます身近なものとなりつつあります。一方で、引き続き地域紛争や地球環境の悪化など、世界情勢には不安定な側面もあります。戦後60年を経て、なお溶解しないわだかまりの問題も無視できません。はたして「文化交流」や「対話」、あるいは「文化」そのものは、世界の平和と安定の実現のために役にたつのであろうか。そのような疑問を抱かれている方もいると思います。

私たちジャパンファウンデーションは、文化という国際財を通じ、人と人の交流によって相互理解と対話を促進してきました。交流を重ねることで、人々はそれぞれの文化がもつ精神性や価値観をいっそう深く理解することができます。

こうした経験の蓄積が、自らの文化をも豊かにし、同時に相手への尊敬と信頼感へとつながっていくことを、私たちは体験してきました。

ジャパンファウンデーションは、こうした国際文化交流を専門的に実施する準公的機関として、ある分野では交流のカタリスト(触媒)として、またある分野では自らがプレイヤーとして、過去30余年にわたり活動してきました。

2004年度は、私たちにとって改革の年でした。独立行政法人となって私たちが優先的に取り組んだのは、事業、運営そして人事の面などでの大規模な改革を断行することでした。それは、国際文化交流の重要性に対する時代の要請に応えるためでもあります。同時にこれまでの事業を、さらに内容を充実させながら、より効果的にかつ効率的に





実施するために他ありません。

改革の詳細については、本年度から体裁を変え、読みやすくリニューアルした本書をめくって確かめてください。第1段階の改革から1年を経たいま、これらの改革の成果が少しずつ着実に目に見えはじめたことを、本書で報告できることをうれしく思います。

ジャパンファウンデーションはこうした努力をさらに継続しつつ、新しい課題にも挑戦し、国際交流に従事される内外の方々のご要望に応じていくために鋭意努力していきます。

2005年10月
国際交流基金
(ジャパンファウンデーション)
理事長 小倉 和夫

イントロダクション

理事長メッセージ	1
機構改革について	2
JFのアイデンティティ	4
JFの2004年度を振り返る	6
数字で見るJF	8

文化芸術交流

2004年度活動カレンダー	10
メイントピックス	12

海外における日本語教育

2004年度活動カレンダー	20
メイントピックス	22
日本語国際センター・関西国際センター	26

日本研究・知的交流

2004年度活動カレンダー	28
メイントピックス	30
日米センター	34

海外ネットワーク

活動報告	36
------	----

情報提供・国内連携

情報提供	42
顕彰事業	44
国内連携	46
JFサポーターズクラブ	48

財務・組織・統計

財務諸表	50
重要な会計方針	54
民間からの資金協力	56
組織	58
連絡先一覧	60
地域別活動内容構成比	62
事業実績上位20カ国	64